

清泉女子大学大学院 過去問題

これまでに志願のあった科目について、最も新しい問題の情報を公開します。

なお、公開されていない科目は志願のなかった科目です。

また、一義的な解答例を示すことが難しい問題は、その公開を省略します。

課程			修士課程			
公開 科目	専門科目	言語文化専攻	日本語圏	英語圏	スペイン語圏	
		思想文化専攻	思想文化			
		地球市民学専攻	地球市民学			
	外国語科目 語学科目		英語	スペイン語 (地球市民学専攻を除く)	フランス語 (地球市民学専攻を除く)	
			ドイツ語 (地球市民学専攻を除く)	中国語 (地球市民学専攻を除く)	漢文 (言語文化専攻・地球市民学専攻を除く)	
	小論文	言語文化専攻	日本語圏	英語圏	スペイン語圏	
		思想文化専攻	思想文化			
		地球市民学専攻	地球市民学			
	公開年度			2026 年度入試		
	期			秋季	春季	
出題意図			志望する研究分野に関する基礎的な知識・理解を測る。			

解答例	I【日本文学（上代）】	<p>A</p> <p>『日本書紀』は最初の勅撰正史であり、六国史の一つである。『古事記』と異なり、序文を持たないため、編纂が開始された時期や経緯については不明な点も多い。『続日本紀』には、舎人親王らの編纂によって、養老四年（七四〇）に元正天皇に奉ぜられたとある。六八一年に、天武天皇が川島皇子らに編纂を命じたのが編纂の始発であるとする説もある。</p> <p>B</p> <p>①山上憶良 奈良時代の官人、歌人。『万葉集』に収められた「貧窮問答歌」に見られるように、思想性・政治性の強い歌を詠んだ。歌集「類聚歌林」の编者でもある。</p> <p>②『出雲国風土記』 (解答例) 和銅六年（七一三）の詔により撰進された『風土記』の一つで、現存『風土記』の中で唯一の完本である。天平五年（七三三）成立。出雲地方の地理、産物、伝説などを郡毎に記す。</p>
	II【日本文学（中古）】	<p>A</p> <p>歴史物語は、平安時代後期に成立した『栄花物語』を嚆矢とする。事実よりも虚構にこそ真実があるとした『源氏物語』の影響を強く受け、真実を物語的に描くことにより、新しい文学ジャンルが拓かれた。『栄花物語』と踵を接して、人間を主体とした歴史のあり方を描く『大鏡』が成立し、以降、『今鏡』『水鏡』『増鏡』と後続の作品が生み出されていった。</p> <p>B</p> <p>① 藤原俊成 平安末期の歌人。幽玄体の歌を確立し、新古今調歌風の形成に重要な役割を果たした。後白河院の院宣により『千載和歌集』を撰進する。『古来風体抄』等の歌論書も多く記した。</p> <p>②『大和物語』 一〇世紀成立の歌物語。百七十余りの章段を持つ。『伊勢物語』と異なり、全章段に共通する主人公を持たず、前半は当時の歌語りを集め、後半は物語・説話的な話を載せる。</p>

解答例	III【日本文学（中世）】	<p>A 省略</p> <p>B</p> <p>① 近代秀歌 新古今和歌集の撰者の一人でもある歌人、藤原定家が、鎌倉将軍である源実朝の求めに応じて書いた和歌の指南書であり歌論書。末尾に秀歌の例を付す。本歌取りの極意である「詞は旧きを慕ひ、心は新しきを求め」はその後の御子左家や歌人の心詞論の端緒となった。</p> <p>② 難太平記 室町時代の武将であり文化人でもある今川了俊の著作。南北両の動乱を描いた『太平記』に対して、自らの祖先の今川一族の活躍が正しく書かれていないということについて難じた書。また、『太平記』の成立過程が書かれていることも着目すべき書である。</p>
	IV【日本文学（近世）】	<p>A 省略</p> <p>B</p> <p>① 春雨物語 上田秋成作の読本作品。文化五年（1808）成立。秋成の最晩年の作で、作者の人間観・歴史観・思想観・文芸観等の総決算とも言える怪異小説。「血かたびら」「天津をとめ」「海賊」「二世の縁」「目ひとつの神」「死首の咲顔」「捨石丸」「宮木が塚」「歌のほまれ」「樊噲」の十編より成る。作者自身により幾度かの補筆改訂が為され、自筆や転写による複数の伝本が存在するが、写本でしか伝わらず版行されなかった。</p> <p>② 義太夫狂言 元々人形浄瑠璃で上演されたものを、歌舞伎に移した作品。浄瑠璃は歌舞伎より全体のストーリーを重視することから、義太夫狂言は重厚でドラマ性の高い作が多く、三大傑作とされる『菅原伝授手習鑑』『義経千本桜』『仮名手本忠臣蔵』が代表作。役者の演技が義太夫の太夫の語りと三味線の伴奏に乗る形で演じられる一方、役者が演じることによって元々の浄瑠璃になかった工夫も加えられ、入れ事と呼ばれる新たな科白や場面が加えられる場合もある。</p>

解答例	V【日本文学（近代I）】	<p>A 省略</p> <p>B 省略</p>
	VI【日本文学（近代II）】	<p>A 省略</p> <p>B</p> <p>① 台湾 一八九五年から終戦までの日本統治下において、台湾を訪れ、または生活した日本の作家、そして台湾を舞台にした小説は少なくない。一九二〇年に三ヶ月にわたって台湾を訪問した佐藤春夫は、台湾の文化人とも交流する中、幻想・怪奇色のある『女誠扇綺譚』から、抗日運動を素材とした社会派の『霧社』まで、一連の台湾ものを書いた。幼少期から結婚・離婚まで台湾で暮らした真杉静枝も、『南方の墓』など植民地台湾で暮らす日本人たちの姿を描いている。</p> <p>② 南洋 第一次対戦後、日本はドイツの植民地だった南洋諸島を委任統治することとなり、一九二二年に南洋庁を置いた。中島敦はその南洋庁に一九四一年から翌年まで勤務し、その際の見聞・取材から『南島譚』など一連の南洋文学を記した。また戦時下に現在のインドネシアなどを訪れた林芙美子は、その体験をもとに『ボルネオダイヤモンド』など数々の作品をノスタルジックに書いている。</p>
	VII【日本語（I）】	<p>A 省略</p> <p>B</p> <p>① 否定の助動詞 （解答例）否定の助動詞は、動詞に接続し、その動詞の表す動作の否定を表す。現代日本語共通語の否定の助動詞は「ない」だが、方言および文語では「ぬ／ず」も用いられている。また、形容詞に接続する「ない」は否定の助動詞ではなく、補助形容詞である。</p> <p>② 外来語 （解答例）古代に渡来した漢語を除く外国語由来の語を外来語と呼ぶ。欧米の言語に由来する外来語は主に片仮名で表記されるが、中世・近世から用いられているポルトガル語由来の外来語には「合羽」「歌留多」「天婦羅」など漢字があてられているものもある。外来語は外国語の発音を日本語の音韻で表現しているため。[k]といった子音のみの音を「ク」「キ」など狭母音を伴う音で表現したり「ティ」「ヴァ」「ツァ」など外来語のみで用いられる表記がある。</p>

解答例	VIII【日本語 (II)】	<p>A 省略</p> <p>B ②節用集 (解答例) 室町時代頃に成ったものが「古本節用集」と呼ばれており、江戸時代、明治時代にも同様の辞書が編纂された。漢字列を見出しにして、それに振仮名を施してあることが多い。</p> <p>③字形と字体 (解答例) 文字概念に基づいて具体的に実現しているものが「字形」で、文字概念をかたちづくっているものが「字体」。「字体」は共時態内で共有されている。</p>
	IX	<p>翻字A：いにしへ人のかよひしとき九月十三日の月さやかなりしときともに月をゑいしよみたりしうたをかきたるあふきなりしかもその人とみつからふたりしてかきたれはふてまてしるしふかしさて / \ その人はさころもにてましますやをしらざりけることあさましけれ</p> <p>翻字B：このわらはきつゝみることにたのもしけなく宮のうちもさひしくすこけなるけしきをみてかたらうまろかきみをこのみやにかよはしたてまつらはやまたさためたるかたもなくてをはしますにいかによからん</p>

二〇二六（令和八）年度 秋季
大学院修士課程 入学試験問題

《言語文化専攻》

【専門科目・日本語圏言語文化関係】

次のⅠ～Ⅲのうち、三つを選んで答えよ。〔計200点〕

〈注意〉○A・B両方に答えること。

○選んだ設問のローマ数字の番号を、解答用紙の所定の欄に記入すること。

I 【日本文学（上代）】

A 『日本書紀』の成立過程について、論述せよ。

B 次の項目について、それぞれ説明せよ（解答欄のBに、各自①②を記入して答案を書くこと）。

- ① 山上憶良 ② 『出雲国風土記』

II 【日本文学（中古）】

A 歴史物語の発生と展開について、作品名を挙げて論述せよ。

B 次の項目について、それぞれ説明せよ（解答欄のBに、各自①②を記入して答案を書くこと）。

- ① 藤原俊成 ② 『大和物語』

III 【日本文学（中世）】

A 中世における説話文学の特性について、具体例を挙げながら、論述せよ。

B 次の項目について、それぞれ説明せよ（解答欄のBに、各自①②を記入して答案を書くこと）。

- ① 『近代秀歌』 ② 『難太平記』

IV 【日本文学（近世）】

A 近世半ばの文運東漸について、論述せよ。

B 次の①～③の項目のうち二つを選んで、それぞれ説明せよ（解答欄のBに、各自選んだ二項目の番号を記入して答案を書くこと）。

- ① 『春雨物語』
- ② 義太夫狂言
- ③ 蕉風中興運動

V 【日本文学（近代Ⅰ）】

A 明治の近代詩の誕生と変遷について、具体的な作家・作品を挙げて論述せよ。

B 次の①～⑤の項目のうち二つを選んで、それぞれ説明せよ（解答欄のBに、各自選んだ二項目の番号を記入して答案を書くこと）。

- ① 二葉亭四迷と森鷗外
- ② 尾崎紅葉と幸田露伴
- ③ 国木田独歩と徳富蘆花
- ④ 永井荷風と谷崎潤一郎
- ⑤ 志賀直哉と芥川龍之介

VI 【日本文学（近代Ⅱ）】

A 一九八〇年代の文学状況について、具体例を挙げて論述せよ。

B 次の①～⑤の項目のうち二つを選んで、それぞれに関連する具体的な作家・作品名等を挙げ、それらについて説明せよ（解答欄のBに、各自選んだ二項目の番号を記入して答案を書くこと）。

- ① 台湾
- ② 南洋
- ③ 京城
- ④ 長崎
- ⑤ 北海道

VII 【日本語Ⅰ】

A 日本語史における時代区分を示し、その時代の日本語の特徴について論述せよ。

B 次の①～⑤の項目のうち二つを選んで、それぞれ説明せよ（解答欄のBに、各自選んだ二項目の番号を記入して答案を書くこと）。

- ① 否定の助動詞
- ② 外来語
- ③ 格助詞
- ④ 接続詞
- ⑤ 丁寧語

VIII 【日本語Ⅱ】

A 文献を使って日本語の分析をおこなう場合に注意すべき点について、具体的な文献を一つ示しその文献を使って得られることが予想される日本語学的な知見についてふれながら、注意点について論述せよ。

B 次の①～⑤の項目のうち二つを選んで、それぞれ説明せよ（解答欄のBに、各自選んだ二項目の番号を記入して答案を書くこと）。

- ① 『日葡辞書』
- ② 『節用集』
- ③ 字形と字体
- ④ 役割語
- ⑤ 変異形

(Ⅸは次ページ)

IX 次のA・Bそれぞれの文章の「」内を翻字せよ。

A
「
九月十一日首月
」

B
「
」

清泉女子大学大学院 過去問題

これまでに志願のあった科目について、最も新しい問題の情報を公開します。

なお、公開されていない科目は志願のなかった科目です。

また、一義的な解答例を示すことが難しい問題は、その公開を省略します。

課程			修士課程			
公開 科目	専門科目	言語文化専攻	日本語圏	英語圏	スペイン語圏	
		思想文化専攻	思想文化			
		地球市民学専攻	地球市民学			
	外国語科目 語学科目		英語	スペイン語 (地球市民学専攻を除く)	フランス語 (地球市民学専攻を除く)	
			ドイツ語 (地球市民学専攻を除く)	中国語 (地球市民学専攻を除く)	漢文 (言語文化専攻・地球市民学専攻を除く)	
	小論文	言語文化専攻	日本語圏	英語圏	スペイン語圏	
		思想文化専攻	思想文化			
		地球市民学専攻	地球市民学			
	公開年度			2026 年度入試		
	期			秋季	春季	
出題意図			志望する研究分野に関する基礎的な知識・理解を測る。			

解答例	I	<p>(1)</p> <p>人は食事をしながらテレビを見ることができるかも知れないが、それはこれらの活動が異なる注意を必要とするからである。(例えば食べることは聴覚を必要としない。)</p> <p>しかし、人はテレビを見ながら電話で十分な会話を続けることは難しいと感じる。</p> <p>(つまり、どちらも聴くための注意力を働かせているからである。)</p> <p>(2)</p> <p>これらの仮説のおおまかな考え方は、(a) 学習者が言語的刺激に積極的に注意を向けることで学習が可能になるということ、そして (b) 注意の度合いが学習者が特定の時点でインプットされたものから気づけることに影響を与えるということである。</p>
	II	省略
	III	省略

2026（令和8）年度 春季
大学院修士課程 入学試験問題
《言語文化専攻》
【専門科目：英語圏言語文化関係】

次のⅠ，Ⅱ，Ⅲの各問題すべてに解答せよ。【合計 200 点】

Ⅰ 次の英文の下線部(1)、(2)を日本語に訳せ。【60 点】

Attention

Attention is a cognitive process involving the ability to select and focus on particular stimuli from the environment while ignoring others. For example, while driving, a person selects and focuses on traffic, stoplights, crosswalks, and so on, while tending to ignore the sky, birds chirping in a tree, and the license plates on most other cars. In SLA*, the stimuli would be linguistic items in the input. Three constructs of attention are generally discussed in the literature: capacity, selection, and effort.

Capacity refers to learners' ability to allocate attention to the processing of the information they receive. It is well established that attention involves a limited capacity; that is, people are exposed to a large number of stimuli and the brain cannot process all of them at the same time. However, capacity may be modal and context dependent. That is, (1)people may be able to eat and watch TV at the same time because these activities require different kinds of attention (e.g., eating does not require the audio modality). However, people find it difficult to carry on a full conversation on the phone while watching TV (i.e., because both tap into the attention required for listening).

The second construct within attention is selection. Assuming that there is a limited capacity to attend to stimuli, the attentional system must select from incoming information/stimuli. Detection is the process involved in

selecting and registering data in working memory.

The third construct is effort. The degree of effortful attention needed depends on the capacity demands of the task learners have to accomplish. A task differs in the modes of processing information. Automatic processing of information would require little attentional efforts for L2 learners, whereas controlled processing of information will require lots of attention and would proceed slowly.

Attention is a construct that has attracted the interest of second language researchers, and it plays a major role in some hypotheses about L2 acquisition (e.g., noticing). (2)The general idea of some of these hypotheses is that (a) learners must actively attend to linguistic stimuli in order to learn; and (b) attention may affect what learners can detect in the input at any given time. That is, some scholars have looked at the possibility that learners "selectively attend" to stimuli in the input.

注

* SLA Second Language Acquisition の略語

【出典】VanPatten, B., & Benati, A. G. (2010). *Key Terms in Second Language Acquisition*. Continuum International. (一部省略、一部改変)

II Explain in English the research you plan to do in graduate school.

【80点】

Ⅲ 次の文章を読んで、考えたことを解答用紙の範囲内に収まるように日本語で述べよ。【60点】

日本文学者エドワード・ファウラーによる論文（1992）が論じているように、グローヴプレス、アルフレッド・クノッフ、ニューディレクションズといったアメリカの出版社は、1950年代から60年代にかけて、日本の長編小説や短編小説集の英訳を数多く刊行した。その文学的価値のみならず、商業的価値に関心をしめしたがゆえである。とはいえその選択肢は非常にかぎられたもので、比較的少数の作家にしぼられていた。谷崎潤一郎、川端康成、三島由紀夫といったところが主だった顔ぶれだ。1980年代末の時点で、詩人、翻訳家のある書評者は、こんな感想を述べている。

〔川端の小説〕『雪国』こそが、おそらくは平均的な西洋の読者が典型的な「日本」として思い浮かべる姿である。つまり捉えがたく、謎にまつまれ、茫漠としている。

別の、より自省的な書評者も同じ文化的なイメージを提出しているのだが、その人物は日本のコミカルな小説の英訳に出会って、胸に手を当ててこう問うている。

デリカシー、寡黙さ、捉えがたさ、胸をしめつける憂鬱（日本人特有と決めこんでいた特性だ）とは、思ったほど〔日本の〕小説の特徴ではないのではないか？

ファウラーいわく、アメリカの出版社が確立した日本文学の英訳の正典は、日本文学を代表するようなものでないどころか、はっきりとしたステレオタイプにもとづくものであり、このステレオタイプこそ、ざっと40年のあいだ読者の期待を方向づけてきたものだ。そのうえ、この正典が生みだした文化のステレオタイプは英語を越えて広がりをもった。日本文学が英訳されると、間を置かず英訳からほかのヨーロッパ言語にも訳されるのが慣例だったからだ。事実上、「日本の小説にかんしては、英語圏の読者の好み、西洋全体の好みを多かれ少なかれ決めてきた」。

正典が形成されるうえで興味深い点はいくつもあるが、その中に、上述の英語圏の読者の好みとは、ごく一部の読者層の好みだという事実がある。主として、商業出版社と協同する日本文学を大学で教える専門家たちの好みなのだ。谷崎、川端、三島の英訳は、ハワード・ヒベット、ドナルド・キーン、アイヴァン・モリス、エドワード・サイデンステッカーといった大学教授たちが、日本語テキストを英語で出版する編集者に助言をあたえて刊行したものだ。指摘されているのは、その訳文は均一であって、「お上品な文学趣味と、それに見合ったお上品な文才をもった現代のアメリカの大学教授が言ったり書いたりしなさそうな」言葉は避けられているということだ。こうしたアカデミックな翻訳者とその編集者の関心はさまざまだが（文学、民俗、経済）、いずれも第二次世界大戦のころ日本と出会ったことが、その形成に決定的な役割をはたした。そして彼らが確立した正典は、失われた過去というノスタルジックなイメージを生みだしたのだ。翻訳された小説の多くは日本の伝統文化に触れており、

なかには戦争や西洋化のせいで社会が混乱していることを嘆く小説もあった。日本は「差し迫った脅威である好戦的な強国という、戦前のイメージとは正反対の、エキゾチックで、美化された、真の意味での^{フオーリン}異国」として描かれた。

正典にあらわされたノスタルジアは明確にアメリカ的なもので、日本の読者にはかならずしも共有されてはいなかった。たとえばキーンは、英語圏では批評家としても翻訳家としても相当な権威であって、谷崎の日本での微温的な受容のされ方に、文学・政治の両方で異を唱えている。「彼〔谷崎〕は、全くのつまらない文章は、一行たりとも書くことができなかつたように思われる」とキーンは感じ、1940年代初期、戦時中に政府によって発禁処分を受けた長編『細雪』を特に絶賛する。

戦争にかき乱される前の日本をゆったりと書いている文章の調子が、時局下にふさわしい勇ましい、戦意を鼓舞するような文学を奨励していた検閲官にはたまらなかつたのだろう。

ゆえに、正典が投影するノスタルジックなイメージは、さらに大きな、地政学的な広がりをもっていた。

この〔翻訳に選ばれた小説の〕美化された国は、当時日本が、太平洋戦争の宿敵から冷戦時代の一心同体の盟邦にほとんど一夜にして変貌した時期にあつて、まさに正しいイメージをあたえてくれるものだった。

日本小説の英訳版による正典は、アメリカの対日外交政策（そこにはソヴィエト連邦の東方拡大主義も織りこまれていた）を文化面から内^{ドメスティック}むきにサポートする役割をはたした。

【出典】ローレンス・ヴェヌティ著 秋草俊一郎・柳田麻里訳『翻訳のスキャンダル ― 差異の倫理にむけて』株式会社フィルムアート社、2022年（一部改変）

清泉女子大学大学院 過去問題

これまでに志願のあった科目について、最も新しい問題の情報を公開します。

なお、公開されていない科目は志願のなかった科目です。

また、一義的な解答例を示すことが難しい問題は、その公開を省略します。

課程			修士課程			
公開 科目	専門科目	言語文化専攻	日本語圏	英語圏	スペイン語圏	
		思想文化専攻	思想文化			
		地球市民学専攻	地球市民学			
	外国語科目 語学科目		英語	スペイン語 (地球市民学専攻を除く)	フランス語 (地球市民学専攻を除く)	
			ドイツ語 (地球市民学専攻を除く)	中国語 (地球市民学専攻を除く)	漢文 (言語文化専攻・地球市民学専攻を除く)	
	小論文	言語文化専攻	日本語圏	英語圏	スペイン語圏	
		思想文化専攻	思想文化			
		地球市民学専攻	地球市民学			
	公開年度			2026 年度入試		
	期			秋季	春季	
出題意図			志望する研究分野に関する基礎的な知識・理解を測る。			

解答例	問Ⅰ	省略
	問Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・光明皇后 聖武天皇の皇后。父は藤原不比等。孝謙(称徳)天皇の母。729年長屋王の変後、皇族以外で初めて皇后に立ち、皇后宮職が置かれた。興福寺造営や五月一日経写経、悲田院・施薬院の設置など仏教信仰に基づく事業を推進した。749年孝謙天皇即位後、光明皇太后のために設置された紫微中台は、甥の藤原仲麻呂の権力基盤となった。756年に聖武天皇が没すると、東大寺に正倉院宝物の中核となる聖武天皇遺愛の品を納めた。 ・カラコルム モンゴル帝国の首都。現在のモンゴル国中部に位置し、良好の牧草地帯かつ交通の要地で、匈奴・突厥・ウイグルなど遊牧諸政権が拠点をついた。モンゴル高原を制覇したチンギス・ハンもこの地を根拠地にし、オゴデイはこの地に城壁を築き、拠点整備を進め、道路網と駅伝制度によって各地の商人や外交使節もこの地を訪れた。近年の調査では、大都に首都が移り嶺北の拠点都市となった後も宗教上のメトロポリスであったことが示された。 ・色彩遠近法 色彩遠近法とは、色の心理効果を画面に応用して遠近感を表現するもので、赤は近く、青は遠くのものに使われる。風景表現における空気遠近法もその一種であり、前景を茶褐色、中景を緑色、遠景を青色で風景を描写することによって深い奥行きを作り出した。こうした技法は15～16世紀のネーデルラントの画家たちによって活用された。例えばヨアヒム・パティニールによる、宗教画の背景として描かれた風景などに顕著である。 ・『道徳の系譜』 フリードリヒ・ニーチェの『道徳の系譜』は、善悪の価値判断の起源と成立過程を歴史的・心理学的に解明しようとした著作である。ニーチェは、強者の自己肯定にもとづく主人道徳に対し、弱者のルサンチマン（怨恨）から生じた奴隷道徳がキリスト教を通じて支配的になったと論じた。また、罪責感や良心の形成過程を分析し、さらに禁欲主義的理想の意味を考察することを通じて、既存の道徳価値そのものを問い直した。

2026（令和8）年度 秋季
大学院修士課程 入学試験問題
《思想文化専攻》
【専門科目】

I 次の設問の中から、自分の専攻分野に関するテーマを1つ選んで解答せよ。(600字～800字)
〔100点〕

- 1) 歴史上における社会変動をともなう事件を一つとりあげ、その事実関係と影響とを論ぜよ。
- 2) 美術作品における質感とその視覚的な効果について、具体例を挙げて論ぜよ。
- 3) 美について哲学的あるいは宗教的観点から論ぜよ。

II 以下の事項の中から4つ選んで、それぞれ説明せよ。(1事項200字以内)〔100点〕

【注意】各事項は専攻分野ごとにグループ化されているが、どの事項を選ぶかは任意であり、自分の専攻分野に合致するグループから4つすべてを選ぶ必要はない。

ラメス2世	董仲舒	光明皇后
カノッサ事件	カラコルム	惣領制
ドイツ三十年戦争	郎世寧	大奥
ドレフュス事件	汴京	日英同盟
カラヴァッジョ	乾漆像	
色彩遠近法	中尊寺金色堂	
《降誕》	洛中洛外図	
ロマネスク	黒田清輝	
異端	悪の凡庸さ	
免償	『道徳の系譜』	
『歎異抄』	デュナミスとエネルギー	
クレルヴォーのベルナルドゥス	アンセルムス	

清泉女子大学大学院 過去問題

これまでに志願のあった科目について、最も新しい問題の情報を公開します。

なお、公開されていない科目は志願のなかった科目です。

また、一義的な解答例を示すことが難しい問題は、その公開を省略します。

課程			修士課程			
公開 科目	専門科目	言語文化専攻	日本語圏	英語圏	スペイン語圏	
		思想文化専攻	思想文化			
		地球市民学専攻	地球市民学			
	外国語科目 語学科目		英語	スペイン語 (地球市民学専攻を除く)	フランス語 (地球市民学専攻を除く)	
			ドイツ語 (地球市民学専攻を除く)	中国語 (地球市民学専攻を除く)	漢文 (言語文化専攻・地球市民学専攻を除く)	
	小論文	言語文化専攻	日本語圏	英語圏	スペイン語圏	
		思想文化専攻	思想文化			
		地球市民学専攻	地球市民学			
	公開年度			2026 年度入試		
	期			秋季	春季	
出題意図			志望する研究分野に関する基礎的な知識・理解を測る。			

解答例	問Ⅰ	省略
	問Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 寄木造 像の頭・体幹部を複数の木材から造る、木彫仏の制作技法をいう。材を仮組みして概形を決定したのち、分解して彫刻を進め、材を矧ぎ合わせて仕上げを施す工程をとるため、小材でも巨像を制作でき、分業も可能で、大きな内割りを施せるという利点もある。飛鳥時代後期には作例が知られるが、本格化したのは10世紀末～11世紀初めの康尚の時代で、定朝による天喜元年（1053）の平等院鳳凰堂阿弥陀如来坐像は寄木造の完成形とされる。 ・ シャーマニズム シャーマニズムとは、シャマンと呼ばれる呪術＝宗教的職能者を中心とする宗教現象である。シャマンはトランス状態と呼ばれるような特殊な心身状態において、神霊・精霊・死霊などの超自然的存在と直接接触・交渉し、治病・ト占・預言・祭儀などを行うとされる。脱魂や憑依を特徴とし、北・中央アジアを典型例とするが、世界各地に類似現象が分布し、他の宗教現象と複合することも少なくない。日本では巫俗・巫術として知られる。 ・ 松平定信 徳川吉宗の次男田安宗武の7男として生まれ、白河藩主松平定邦の養子となる。11代将軍徳川家斉政権期の天明7年に老中首座、その翌年より将軍補佐となった。寛政の改革を主導し、旧里帰農令、七分積金、人足寄場、寛政異学の禁など、数々の施策を打ち出した。しかし、出版統制令や倭約令などの厳しい統制は、民衆の反発を招き、朝廷との「尊号一件」問題などにより、将軍家斉とも対立し、6年余りで退陣した。また、「宇下人言」「花月草紙」など多くの著作を残している。 ・ 選帝侯 神聖ローマ帝国において皇帝（ローマ王）の選出権を持った有力諸侯のこと。1356年にカール4世が発した金印勅書で人数と資格が定められ、7人の諸侯が皇帝選挙を実施した。当初はマインツ、トリーア、ケルンの3人の大司教と、プファルツ、ザクセン、ブランデンブルク、ベーメンの4人の世俗諸侯がその地位にあったが、以後その数や構成は時代とともに変化した。

2026（令和8）年度 春季
大学院修士課程 入学試験問題
《思想文化専攻》
【専門科目】

I 次の設問の中から、自分の専攻分野に関するテーマを1つ選んで解答せよ。(600字～800字) [100点]

- 1) ある時代、ある地域の社会において女性が大きな役割を果たした事例を選び、具体的事実を説明したうえで、その歴史的意義を論ぜよ。
- 2) 美術における装飾性について、具体的な事例をとりあげて論ぜよ。
- 3) 愛について、哲学的観点あるいは宗教的観点から論ぜよ。

II 以下の事項の中から4つ選んで、それぞれ説明せよ。(1事項200字以内) [100点]

【注意】各事項は専攻分野ごとにグループ化されているが、どの事項を選ぶかは任意であり、自分の専攻分野に合致するグループから4つすべてを選ぶ必要はない。

プトレマイオス朝	天人相関説	陰陽道
ノルマン・コンクエスト	唐宋変革論	源頼朝
選帝侯	康熙帝	松平定信
国連安全保障理事会	孫文	広島・長崎への原子爆弾投下
ハンス・メムリンク	横山大観	
風景画	寄木造	
最後の審判図	喜多川歌麿	
ルネサンス	彦根屏風	
ミサ	ユルゲン・ハーバーマス	
ロゴス	『パイドン』	
シャーマニズム	アベラール	
道元	自己意識と対象意識	

清泉女子大学大学院 過去問題

これまでに志願のあった科目について、最も新しい問題の情報を公開します。

なお、公開されていない科目は志願のなかった科目です。

また、一義的な解答例を示すことが難しい問題は、その公開を省略します。

課程			修士課程			
公開 科目	専門科目	言語文化専攻	日本語圏	英語圏	スペイン語圏	
		思想文化専攻	思想文化			
		地球市民学専攻	地球市民学			
	外国語科目 語学科目		英語	スペイン語 (地球市民学専攻を除く)	フランス語 (地球市民学専攻を除く)	
			ドイツ語 (地球市民学専攻を除く)	中国語 (地球市民学専攻を除く)	漢文 (言語文化専攻・地球市民学専攻を除く)	
	小論文	言語文化専攻	日本語圏	英語圏	スペイン語圏	
		思想文化専攻	思想文化			
		地球市民学専攻	地球市民学			
	公開年度			2026 年度入試		
	期			秋季	春季	
出題意図			志望する研究分野に関する基礎的な知識・理解を測る。			

解答例	問 I	<ul style="list-style-type: none">・ジェンダーギャップ指数 ジェンダーギャップ指数（GGGI）は、世界経済フォーラム（WEF）が毎年公表する、男女格差の状況を国別に数値化した指標である。「経済」「政治」「教育」「健康」の4分野における男女比を、1（完全平等）から0（完全不平等）の間でスコア化する。日本の特徴は、教育や健康分野で高い達成度を示す一方、管理職や国会議員の少なさから「経済」と「政治」のスコアが極端に低い点にある。この指数は、単なる倫理的な不平等問題にとどまらず、意思決定層の多様性欠如や労働力不足といった、国家の国際競争力や経済の持続可能性を測る重要な構造的指標として位置づけられている。 ・イノベーションのジレンマ イノベーションのジレンマとは、優良企業が既存顧客の意見に耳を傾け、高品質な製品を提供する「持続的イノベーション」に注力するあまり、新技術を携えて登場した新興企業に市場を奪われる現象である。原因は、合理的で洗練された管理体制そのものが、初期市場が小さく不確実性の高い「破壊的イノベーション」を過小評価してしまう点にある。既存事業の成功論理が、かえって次の成長の足かせになるという企業の宿命的な矛盾を示している。克服には、既存の評価軸から切り離された独立組織を社内に創設し、不確実な新市場の開拓に投資する「両利きの経営」を実践することが不可欠とされる。 ・統合報告書 省略 ・カーボンニュートラル 温室効果ガスの排出量を削減し、森林吸収やCCUS（回収・利用・貯留）技術により、実質的な排出量をゼロにする状態である。産業革命以降の地球温暖化を抑制するための国際的目標（パリ協定）に基づいている。単なる環境保護ではなく、エネルギー転換や新産業創出を伴うグリーン・トランスフォーメーション（GX）への移行を意味する。実現には、再生可能エネルギーの主力電源化と同時に、多排出産業からの公正な移行（雇用の確保や地域経済への配慮）をどう両立するかが社会科学的な焦点となる。
-----	-----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>解答例</p>	<p>問1</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気候変動に関する政府間パネル（IPCC） 気候変動に関する政府間パネル（IPCC）は、世界気象機関（WMO）と国連環境計画（UNEP）によって1988年に設立された政府間機構である。目的は、世界中の科学的知見を集約・評価し、各国の気候変動政策に「科学的根拠」を提供することにある。組織自体は独自の直接的な研究や観測は行わず、数年ごとに公表する「評価報告書」を通じて、地球温暖化の現状や将来予測、社会への影響、および緩和策を提示する。政治的に中立な立場を貫きつつも、その報告書は「パリ協定」などの国際的な枠組み交渉の重要な土台となっており、現代のグローバルな環境統治（環境ガバナンス）において中心的な役割を果たしている。 ・ カーボンフットプリント 省略 ・ 性別役割分業 性別役割分業とは、「男は仕事、女は家庭」というように、生物学的性差を根拠に固定的な社会の役割を男女に割り振る規範や構造のことである。近代の核家族化と資本主義の発展に伴い、男性を賃金労働、女性を無償のケア労働（家事・育児）へ従事させる形態として定着した。しかし現代では、女性の社会進出や自己実現を阻む壁となるだけでなく、男性に対する長時間労働の強制や過度な経済的負担といった弊害を生んでいる。この分業規範は、男女間の経済的格差（ジェンダーギャップ）や少子化を深刻化させる要因と指摘されており、ワークライフバランスの推進や、ケア労働の社会化を通じた見直しが求められている。 ・ 当事者主権 障害者や社会的少数者（マイノリティ）などの「支援を受ける側（当事者）」が、専門家主導の福祉ではなく、自身の生活の決定権や主導権を握るべきだとする思想である。「私たち抜きに私たちのことを決めるな」というスローガンに象徴され、依存からの脱却ではなく「自己決定の確立」を自立と定義し直した。現代の福祉政策や多文化共生論において、サービスの「客体」であった弱者を「主体」へと反転させ、政策決定プロセスへ当事者参画を促す理論的支柱となっている。

解答例	問 I	<p>・グローバルフェミニズム</p> <p>グローバルフェミニズムとは、欧米中心の白人・中産階級の視点を超え、国境や人種、階級、宗教の壁を越えて世界中の女性の権利向上を目指す国際的な運動や理論である。新自由主義的なグローバル化が進む中、先進国女性の社会進出が、途上国女性の低賃金なケア労働（家事・育児）の搾取に依存しているという「ケアのグローバル・チェーン」を強く批判する。単一の女性像を想定するのではなく、各地域の歴史的・経済的背景の違いを重視する。多様な抑圧が交差する構造（インターセクショナリティ）を捉え、ポストコロニアルな視点から、ジェンダー平等をグローバルな資本主義や権力構造の変革と連動して議論する点に特徴がある。</p> <p>・オープンデータ</p> <p>オープンデータとは、国や地方自治体などの公的機関が保有するデータを、誰もが自由に入手・再利用・再配布できるように公開したものである。その定義として、「機械判読に適した形式」であること、および「営利目的を含めた二次利用が可能な利用ルール」で無償公開されていることが求められる。期待される効果は、行政の透明性や信頼性の向上（オープンガバメント）と、民間企業や市民がデータを活用した新たなサービスを創出することによる経済活性化や社会的課題の解決である。データ利活用能力の格差（デジタルデバイド）への対策や個人情報保護との両立が今後の課題である。</p> <p>・グローバルサウス</p> <p>グローバルサウスとは、主にアジア、アフリカ、中南米などの発展途上国や新興国を指す地政学的概念である。地理的な南半球のみを指すのではなく、かつての「東西冷戦」や「南北問題」の枠組みを超え、多極化する国際社会において独自の政治的・経済的影響力を持つアクターの総称として使われる。彼らは気候変動や植民地支配による歴史的格差において、先進国の活動のしわ寄せを最も受けてきた構造的被害者という側面も共有する。国際秩序の再編（G7対BRICSなど）の文脈で注目を集める一方、その多様な国々を一括りにすることへの慎重論もあり、ポストコロニアル理論や開発経済学において重要な議論の対象となっている。</p>
-----	-----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

解答例	問 I	<p>・ソーシャル・キャピタル</p> <p>ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）とは、社会の効率性を高める「信頼」「規範」「ネットワーク」といった人々を結びつける絆のことである。ロバート・パットナムらによって提唱され、物理的資本（設備）や人間資本（教育）に並ぶ第三の資本とされる。これらが豊かな地域では、犯罪率の低下、経済の活性化、行政の円滑な運営が可能となる。機能として、同質的な集団を強める「結束型」と、多様な集団を繋ぐ「橋渡し型」に分類される。現代社会における孤立や格差対策、防災など、コミュニティの持続可能性を支える公共政策や都市計画、社会福祉の文脈で、その再構築や醸成の重要性が議論されている。</p>
-----	-----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

解答例	問 II	<p>1.</p> <p>CSV（Creating Shared Value：共通価値の創造）経営は、社会的課題の解決と企業の経済的利益の創出を両立させるアプローチであり、私はこの経営のあり方を強く支持する。</p> <p>従来のCSR（企業の社会的責任）活動は、本業で得た利益の一部を社会に「還元」する寄付やボランティアが主流であり、企業の財務状況に左右されやすく、持続可能性に課題があった。一方、CSV経営は社会課題の解決そのものを「本業のビジネスモデル」に組み込む。これにより、社会への貢献が深まるほど企業の売上や競争力も向上するという正の循環が生まれる。環境規制や人権配慮への対応が企業の死活問題となる現代において、CSVは単なる倫理的要請ではなく、持続可能な成長を実現するための極めて合理的な生存戦略であると言える。</p> <p>しかし、CSV経営を支持するにあたっては、超えるべき二つの課題（ジレンマ）に留意せねばならない。第一に、すべての社会課題が市場原理だけで解決できるわけではないという点である。採算性の極めて低い貧困対策や難病研究などは、ビジネスの枠組みに馴染みにくく、利益を優先するあまり「真に支援が必要な領域」が切り捨てられるリスクがある。第二に、短期的な利益追求への誘惑である。株主からの四半期ごとの利益圧力が強い市場環境下では、長期的な社会価値への投資が軽視され、見せかけの貢献に終始するグリーンウォッシュに陥りかねない。</p> <p>したがって、CSV経営の有効性を担保するためには、企業側の努力だけでなく、非財務情報の開示基準の標準化や、長期的な視点を持つESG投資家との対話といった「市場環境の整備」が不可欠である。社会の持続可能性なくして企業の持続可能性はないという前提に立ち、ビジネスの力で構造的課題に挑むCSV経営は、これからの資本主義が目指すべき必然の方向性であると確信する。</p>
-----	------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

解答例	問 II	<p>2.</p> <p>核廃棄物（高レベル放射性廃棄物）の最終処分場の選定は、地層処分を前提とする場合、数万年以上に及ぶ超長期的な安全性を担保せねばならず、多角的な観点からの慎重な分析と合意形成が不可欠である。</p> <p>まず技術的・環境的観点において最も重視すべきは「地学的な安定性」である。地震や火山活動が活発な日本においては、将来の地殻変動による処分の破綻を防ぐため、火山や活断層から一定の距離があること、隆起や侵食の危険性が低いことが絶対条件となる。また、放射性物質の移動を遅らせる天然の障壁となる「深部地層の岩盤の強固さ」や、物質を運搬する恐れのある「地下水の流れが極めて緩やかであること」も重要である。これらは科学的特性マップ等に基づき、最先端の地質調査技術を用いて客観的に評価されねばならない。</p> <p>しかし、技術的条件を満たすだけでは処分場は決定できない。社会的・政治的観点からのアプローチが実質的な決定鍵を握る。社会的には、建設や輸送に伴う地域住民の安全確保と、風評被害の防止が最優先される。これには、一方向的な説明会ではなく、住民が主体的に学び議論できる「熟議デモクラシー」の場を設け、対等なコミュニケーションを通じた信頼関係を築くプロセスが求められる。</p> <p>さらに政治的には、国主導のトップダウンではなく、地方自治体の自主性を尊重するボトムアップ型のプロセスが不可欠である。負担を特定地域に押し付けるのではなく、国民全体で電力消費の受益者としての責任を共有する「当事者意識」の醸成や、公募・文献調査・概要調査という各段階での地域住民の同意権の法的な担保が、政策の正当性を左右する。</p> <p>結論として、最終処分場の選定プロセスとは、科学技術的な安全性の立証（技術・環境）と、民主的な手続きによる正当性の獲得（社会・政治）を高い次元で統合し、世代間・地域間の公正性を担保していく長期的なガバナンスの構築そのものである。</p>
-----	------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

解答例	問Ⅱ	<p>3.</p> <p>文化相対主義は異文化をその文脈で理解しようとする利点を持つが、時に自文化への過度な擁護や排他性と結びつき、「逆説的な自文化中心主義」を生み出す困難を孕んでいる。</p> <p>この歪みが顕著に現れた事例が、2024年のフランス・パリオリンピックの開会式を巡る議論や、近年の欧州における「表現の自由」と「宗教的禁忌」の対立である。開会式での演出や風刺画に対し、フランス側は「宗教への批判も含めた表現の自由は我が国の尊い文化であり、これを尊重すべきだ」と文化相対主義的な論理で自己を正当化した。しかしこれは裏を返せば、他者の宗教的価値観を「遅れたもの」とみなし、フランス独自の文化規範を「不可侵の絶対的正義」として相手に押し付ける自文化中心主義へと変貌していた。このように、「自国の文化も相対的に認められるべきだ」という理屈が、他者への不寛容や抑圧を正当化する道具として悪用されるケースは少なくない。</p> <p>この困難を乗り越えるためには、文化相対主義を「何でも容認する無原則な肯定」として捉えるのではなく、他者との関係性の中で常に自己を問い直す「再帰的な対話のプロセス」として再定義する必要がある。具体的には、二つのアプローチが求められる。</p> <p>第一に、普遍的な人権や生命の尊厳という「最低限の共通基盤」を共有した上で、各文化の個別性を議論することである。他者の尊厳を著しく傷つける行為まで文化を理由に正当化してはならない。第二に、文化を固定的なものと捉えず、他者との接触によって「常に変容し続ける動的なもの」と認識することである。自文化の殻に閉じこもるための相対主義ではなく、自らの偏見に気づき、他者と共に新たな価値を「共同編纂」していくための知的態度へと転換せねばならない。</p> <p>自文化中心主義という罫を回避し、真の多文化共生を実現するためには、異文化を理解すると同時に、自文化を批判的に客観視する強靱な理性が不可欠である。</p>
-----	----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

解答例	問 II	<p>4.</p> <p>「政治とカネ」の問題は、金権政治による民意の歪みや、意思決定プロセスの不透明化を招き、民主主義の根幹である「正当性」と「公平性」を揺るがす。民主主義の質を維持するためには、資金の「透明性の確保」「流入ルートの厳格な制限」「実効性のある独立した監督機関の設置」の三点が不可欠である。</p> <p>第一に、資金の「透明性」と「制限」において、諸外国は異なるアプローチをとる。フランスは1994年に企業などの法人献金を全面的に禁止し、政治資金を個人献金と公的助成に限定した。これにより、特定利益団体による政治の歪みを構造的に防いでいる。一方、アメリカは表現の自由の観点から最高裁が政治支出を原則自由としたため、スーパーPAC（独立支出のみを行う政治活動委員会）を通じて巨額の企業・団体マネーが選挙戦に流入し、資金力が世論を左右する「金主政治」が民主主義の質を損なう要因として批判されている。</p> <p>第二に、ルールを形骸化させないための「強力な第三者機関の存在」が決定的に重要である。イギリスの「選挙委員会」やアメリカの「連邦選挙委員会（FEC）」のように、行政から独立した専門機関が収支報告を厳格に監査し、違反に対して強力な調査権や摘発・罰則権限を行使する。この仕組みがあることで、政治家による「抜け穴」の利用や、自主的な不祥事隠蔽（隠蔽体質）を防ぎ、市場や有権者に対する説明責任を強制的に担保できる。</p> <p>結論として、民主主義の質を損なわないために求められるのは、単なる精神論の提示や政治家の自制に依存する改革ではない。企業献金の禁止や厳格な上限設定による利害関係の遮断（フランス型）と、独立した監督機関による監視の徹底（英米型）を法制度として組み込み、政治の意思決定が「カネ」ではなく「数の対等性（一票の重み）」に基づく本来の民主的プロセスへと回帰する仕組みを設計し続けることである。</p>
-----	------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**2026(令和8)年度 秋季
大学院修士課程 入学試験問題
《地球市民学専攻》
【専門科目】**

次のⅠ、Ⅱの2問に解答せよ。

Ⅰ 次の諸項目の中から三つを選び、それぞれについて300字程度で説明しなさい。【120点】

ジェンダーギャップ指数	イノベーションのジレンマ	統合報告書
カーボンニュートラル	気候変動に関する政府間パネル (IPCC)	カーボンフットプリント
性別役割分業	当事者主権	グローバルフェミニズム
オープンデータ	グローバルサウス	ソーシャル・キャピタル

Ⅱ 次の1～4の問いの中から一つを選び、800字程度で論じなさい。【80点】

1. CSV (Creating Shared Value) 経営とは、「共有価値の創造」を軸とした経営のことです。CSV 経営を支持するか否か、あなたの見解を述べなさい。
2. 核廃棄物の最終処分場を決定するプロセスは、非常に慎重で長期的です。候補地の選定では何を重視する必要があるか、そのプロセスを技術的、環境的、社会的、政治的な観点から分析し論じなさい。
3. 文化相対主義の利点は、異文化に対して、その文脈での理解を試みるところにあると言われます。しかしそれが自文化中心主義と結びついてしまうケースがあることも、よく知られています。その事例を一つあげ、その困難を乗り越えるためにはどうすればよいか、あなたの見解を述べなさい。
4. 「政治とカネ」の問題は、多くの国で議論されており、民主主義論の中心的テーマにもなっている。民主主義の質を損なわないために何が求められるか、複数の国の事例に言及しつつ論じなさい。

清泉女子大学大学院 過去問題

これまでに志願のあった科目について、最も新しい問題の情報を公開します。

なお、公開されていない科目は志願のなかった科目です。

また、一義的な解答例を示すことが難しい問題は、その公開を省略します。

課程			修士課程			
公開 科目	専門科目	言語文化専攻	日本語圏	英語圏	スペイン語圏	
		思想文化専攻	思想文化			
		地球市民学専攻	地球市民学			
	外国語科目 語学科目		英語	スペイン語 (地球市民学専攻を除く)	フランス語 (地球市民学専攻を除く)	
			ドイツ語 (地球市民学専攻を除く)	中国語 (地球市民学専攻を除く)	漢文 (言語文化専攻・地球市民学専攻を除く)	
	小論文	言語文化専攻	日本語圏	英語圏	スペイン語圏	
		思想文化専攻	思想文化			
		地球市民学専攻	地球市民学			
	公開年度			2026 年度入試		
	期			秋季	春季	
出題意図			志望する研究分野に関する基礎的な知識・理解を測る。			

解答例	問 I	<ul style="list-style-type: none">・ コーポレートガバナンス コーポレートガバナンスとは、企業の統治（＝企業を統治するための仕組み）を意味する言葉で、企業を統治するためのルールや慣行、プロセスのことである。従来のコーポレートガバナンスは、経営者が株主利益の最大化を達成するための企業運営の仕組みやプロセスを意味した。しかし、サステナビリティが求められる現代では、コーポレートガバナンスは株主利益の最大化だけでなく、社会からの期待に応え、企業価値の向上につなげることが重要になる。そこで、昨今のコーポレートガバナンスでは、従業員・顧客・取引先・消費者・社会など様々なステークホルダーとの関係性を維持・改善する役割も担うことになる。・ 自己資本利益率 自己資本利益率（ROE）とは、「Return On Equity」の略です。株主が出資したお金を元手に、企業がどれだけ利益を上げたのかを数値化したもので「企業がどれくらい効率良くお金を稼いでいるか」を示す財務指標である。ROEは、当期純利益（会社が1事業年度の営業活動で株主全体にもたらした利益）÷自己資本（株主が出資したお金など返済する必要のない資産）×100%の計算式で求められる。例えば、株主から集めた1億円を元手に企業が1事業年度（通常は1年間）活動し、最終的に5,000万円の利益を上げたなら、ROEは5,000万円÷1億円×100%=50%となる。・ KPI（Key Performance Indicator） KPIとは、「Key Performance Indicator」の頭文字をとった略語で、日本語では、「重要業績評価指標」と訳される。KPIは、最終的な目標を達成するための物差しや道しるべに相当し、いわば「中間目標」のような存在である。例えば、製造工場で、品質を5%向上させたいとします。この目標達成に向けて、「不良品率を○%以内に押さえる」といった目標が中間目標、いわばKPIに当たる。KPIを設定することで、KGI（Key Goal Indicator、最終的に目指すべき目標）に到達する過程を数値で測定できるようになり、定性的な目標よりも目標達成までのプロセスがわかりやすくなる。
-----	-----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

解答例	問 I	<ul style="list-style-type: none">・ 関係人口 関係人口とは、定住人口や観光などで一時的に訪れる交流人口とは異なり、特定の地域に継続的に多様な形で関わる人々を指す概念である。地方では、人口減少や高齢化、若年層の都市部への流出に伴い、定住人口や交流人口だけでは社会課題に対応しきれないことが問題視されている。そこで、関係人口という新たな人口区分を政策的に位置付ける必要性が生まれた。この考え方の根底には、多様な人々とのネットワークを形成することで、コミュニティの維持に必要な担い手を確保しようという発想がある。関係人口は、地域外からの人的資源として、地域の魅力の再発見を通じた経済活性化や将来的な移住や二地域居住への導入としての役割を果たすことが期待されている。・ 暗黙知と形式知 暗黙知とは、言語化しにくい知識のことで、主に個人の主観や経験や勘、身体感覚に基づく知識を指す。暗黙知は、職人技のように他者の追随を許さない価値を生み出したり、マニュアルが適用できない例外的な場面で役に立ったりする現場の実践に根ざした知識である。一方で、暗黙知には他者と共有するのが難しいという課題もある。これに対して、形式知とは、言語や数式や図表やマニュアルなどで客観的に示すことができる知識を指す。暗黙知とは異なり、第三者に伝えやすい知識である。このため、技能伝承や人材育成が課題となっている現場や組織では、暗黙知を形式知に置き換え、共有していくことが重要となる。・ アルゴリズムリテラシー アルゴリズムは「問題解決のための手順や規則」であり、現代社会ではレコメンデーションシステムや検索順位、さらには生成AIに広く組み込まれている。アルゴリズムリテラシーとは、アルゴリズムが社会や個人の意思決定にどのように用いられ、どのような影響や限界をもつのかを理解し、適切に活用し、批判的に判断する力を指す。たとえばアルゴリズムは問題解決に活用できる一方で、決して中立なものではなく、設計者の意図やデータの偏りが反映される可能性があることを理解する必要がある。生成AIが普及するデジタル社会において、アルゴリズムリテラシーは、民主性や公正性を支える基礎的素養である。
-----	-----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

解答例	問 I	<ul style="list-style-type: none">・ グリーンウォッシュ グリーンウォッシュとは、企業や団体が実際以上に環境に配慮しているように見せかける行為のことである。例えば、一部の商品や活動だけを強調して「環境に優しい」と宣伝する一方で、全体としては環境負荷が大きい場合などが挙げられる。近年、環境問題への関心が高まり、消費者や投資家が企業の環境姿勢を重視するようになったため、このような問題が注目されている。グリーンウォッシュは人々に誤解を与え、真剣に環境対策に取り組む企業の評価を下げってしまう可能性があるため、注意が必要である。 ・ ロス & ダメージ (Loss and Damage) ロス & ダメージとは、気候変動によって生じた被害のうち、適応や対策を行っても防ぎきれない損失や被害を指す言葉である。例えば、海面上昇による国土の喪失や、異常気象による生活や文化の破壊などが挙げられる。この問題は、温暖化の原因を多く生み出してきた先進国よりも、排出量の少ない発展途上国が大きな被害を受けている点で不公平だと指摘されている。そのため、国際社会では被害を受けた国をどのように支援し、責任を分担するかが重要な課題となっている。 ・ 市民参加 (参加型民主主義) 市民社会とは、政府や企業とは別に、市民が自発的に活動し、社会の課題に関わる領域のことである。その中で参加型民主主義とは、選挙だけでなく、市民がさまざまな形で意思決定に参加する考え方を指す。例えば、住民投票やパブリックコメント、市民による話し合いの場などがある。近年、政治への不信感や社会問題の複雑化により、従来の代表制民主主義だけでは市民の声が十分に反映されにくいと感じる人が増えている。そのため、市民がより直接的に社会に関与する仕組みとして参加型民主主義が重要視されている。
-----	-----	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

解答例

問 I

・ファンダメンタリズム（宗教における「原理主義」）

ファンダメンタリズムとは、当初は、キリスト教の聖書を誤謬がないものとしてそのまま信じたり、それを信じない立場を否定したりするアメリカのキリスト教の一部のグループに対する呼称であった。のちにイスラームの過激派・武装闘争派に対しての呼称に広がっていった。大まかに言えば、社会の世俗化による信仰の個人化を否定する立場ではあるが、宗教によっても時代によっても多様性がある。例えばキリスト教とイスラームでは社会における宗教法の役割が異なり、キリスト教に比べてイスラームでは宗教法が日常生活により浸透している。そのため、社会の世俗化に抗する立場といっても、宗教を超えて同じような現象を想定することはできない。

・通過儀礼

日本でいうと例えば七五三、成人式、結婚式、葬式など、人が一生のうちを経験する、ある状態から次の状態へと移る時に行う儀礼のこと。社会の規範を再確認させるため、社会の統合に関係する。V. ターナーは、特に通過儀礼を分離、境界、統合の三つから説明し、特に通過儀礼を行っている間、「境界」つまり人がどちらでもない場所（社会のどこでもない位置）にいることが重要な意味を持つという。境界においては、従来の秩序は一旦保留され、試練が課される。その試練を超えると再度、社会に新しい身分を獲得して統合されていくこととなる。

・人類学におけるアナーキズム

アナーキズムは一般的には無政府主義、政府の支配を転覆させようとする思想的な立場とも分類される。しかし政府の統治機構から遠い・統治が届かない社会を研究してきた人類学の文脈では、思想的な立場というより、政府の統治から「わざわざ」距離を置くことで成熟した社会を成立させる事例のことを指す。無政府状態、すなわち中央集権的な教育、軍隊、税制の「ない」社会は、それらが「足りない」社会なのではなく、それらに距離を置きながら自立する社会である場合がある。それらアナーキズム的社会からは、相互扶助やコミュニケーションによってどのように社会を成立させることができるか、を学ぶことができる。

解答例	問Ⅱ	<p>1.</p> <p>働き方の多様化により、副業を解禁・奨励する企業の増加に加えて、法の整備や労働環境が整いつつあることから、副業はより身近なものになりつつある。</p> <p>企業側からみた副業のメリットは次の2点である。第1に優秀な人材を採用できることである。企業が求める優秀な人材が就職や転職を検討する際に、働き方改革の象徴ともいえる企業の副業容認を、企業選びの重要項目としているケースも少なくない。ターゲットとする人材に対して、多様性をいち早く取り入れている柔軟性ある企業としてアピールができる点で、大いにメリットがある。第2に社員のスキルアップにつながることである。企業という固定された組織において、決まりきった業務だけを担当するだけでは社員が身に付けられるスキルも限られ、社員・企業共に大きな成長にはつながらない。しかし副業を認めれば、本業とは違った様々な業務を通じて社員が多様な経験を得られると同時に、視野の拡大やスキルアップも期待できる。</p> <p>一方で、企業側からみた副業のデメリットは次の2点である。第1に社員の労働時間・健康の管理が難しくなることである。社員が副業に充てる時間も考慮しなくてはならないため、副業を解禁する前と比べると、本業の就業時間との調整が難しくなる。また、過重労働での疲労により、業務能率や質が著しく低下するなどの影響が生じるケースもある。副業を認めた場合、企業側において社員の労働時間の把握や、ケガ・病気による労災保険などの管理を含むさまざまな業務の負担が増える可能性が大きくなる。第2に転職されるリスクが増えることである。社員が副業を始めることで、本業とは別な仕事のやりがいや魅力を見出して転職などの離職につながるケースも少なくない。優秀な人材の流出を防ぐには、社員が本業でイキイキ活躍できるような手段を取る必要がある。</p> <p>このような点を踏まえながら実効性の高い副業制度を構築していく必要がある。</p>
-----	----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>解答例</p>	<p>問Ⅱ</p>	<p>2.</p> <p>地球市民学は、地球規模の課題について、その根底にある対立や矛盾に目を向け、相反する立場にある人びとの間で対話を促し、解決に向けて主体的に行動する市民を育成することを目指す学問領域である。地球市民学にとって、人類の負の遺産に目を向けるダークツーリズムは重要な意味を持つものである。</p> <p>ダークツーリズムの意義を地球市民学の視点から二点指摘する。ひとつは戦争や災害など地球規模で共有すべき悲劇や惨事の歴史の記憶を継承し、過去からの教訓を引き出すという意義である。戦争の契機には対立があり、災害は社会の格差や矛盾を露呈する。これらの対立や矛盾がどのようなもので、どのような対話や行動がその解決に貢献するのかを知る機会としてダークツーリズムは有意義である。もうひとつは、観光行動を通じて悲劇や惨事の現場となった地域社会の復興に貢献できることである。ダークツーリズムの観光資源となるのは、歴史と記憶と物語である。このため現地のガイドや地域住民と観光客との間で対話生まれ、それが契機となり交流や関係人口が創出される可能性がある。</p> <p>次にダークツーリズムを進めるうえでの留意点を地球市民学の視点から二点指摘する。ひとつは倫理面の課題である。ダークツーリズムは、歴史的惨事や他者の悲しみや苦しみを観光資源として扱う。このため被害者やその遺族の感情に十分配慮する必要があり、こうした人々の感情を無視した観光開発は新たな文化的・社会的摩擦を生むおそれがある。もうひとつの留意点は、旅行者が悲劇の現場を見て好奇心を満たすだけの観光体験になってしまうことである。負の遺産をどのような観光資源として提示するかによって、戦争や災害の根底にある対立や矛盾にまで理解が及ばなくなってしまうおそれがある。</p> <p>以上の整理を踏まえると、ダークツーリズムの推進に地球市民学の視点を取り入れることは有用だと考えられる。</p>
------------	-----------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

解答例	問 II	<p>3.</p> <p>純粋公共財は非排除性・非競合性をもつため、フリーライダーが発生しやすく、市場メカニズムだけでは十分に供給されにくい。この点で政府による税財源での提供が典型とされるが、近年はソーシャルビジネスが公共財に近い役割を部分的に担う可能性が注目されている。</p> <p>ソーシャルビジネスとは、利益最大化を唯一の目的とせず、社会課題の解決を事業活動の中心に据えるビジネスである。完全な非排除・非競合を実現する純粋公共財そのものを提供することは難しいが、「準公共財」や「公共財的效果」を生み出す形で機能しうる。</p> <p>具体例として、発展途上国での安全な飲料水提供事業が挙げられる。例えば、低価格浄水器を販売するソーシャルビジネスは、製品自体は私的財であり購入者に限定されるが、安全な水へのアクセス拡大は感染症の減少や地域全体の衛生向上につながる。この外部効果は非競合的かつ事実上非排除的であり、結果として公共財に近い価値を社会にもたらす。</p> <p>また、オープンソースソフトウェアを基盤とするIT系ソーシャルビジネスも一例である。ソフトウェアそのものは無償公開され、非競合的に利用可能である一方、企業は保守やカスタマイズ、教育サービスなど排除可能な周辺サービスで収益を得る。こうして知識や技術という公共財的資源を拡充しつつ、持続可能性を確保している。</p> <p>このようにソーシャルビジネスは、①外部効果を通じて公共財的便益を広く社会に波及させる方法、②公共財のコアと私的財的サービスを組み合わせるハイブリッド型の方法によって、公共財に近い役割を果たしうる。ただし、純粋公共財を完全に代替するわけではなく、政府やNPOとの補完関係が前提となる点に留意が必要である。それでも、財政制約が厳しい現代社会において、ソーシャルビジネスは公共財供給の新たな担い手として重要な可能性を持つと言える。</p>
-----	------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

解答例	問 II	<p>4.</p> <p>民主主義の発展において、社会の多様な声を政策に反映させることは不可欠な要素である。その実現に向け、国政および地方選挙において男女の候補者数をできる限り均等にすることを目指したのが「政治分野における男女共同参画推進法」である。この法律は、国や地方公共団体に適切な施策を講じるよう求め、政党などの団体には数値目標の設定といった自主的な取り組みを促している。</p> <p>諸外国に目を向けると、フランスの「パリテ法」のように、候補者を男女同数にするのを政党に義務付け、違反した場合には公的助成金を減額するといった強力な法的拘束力を持つ例も存在する。これに対し、日本の現行法はあくまで「努力目標」に留まり、罰則も設けられていない。このため、法律施行後も候補者や当選者に占める女性比率は依然として低く、実効性の面で大きな課題を残している。</p> <p>こうした議論において必ず浮上するのが、「性別を優先することで、個人の實力や能力が軽視されるのではないか」という反対意見である。しかし、現状の男女比の著しい偏りは、個人の能力差ではなく、育児負担の偏りや政治文化の閉鎖性といった構造的な障壁に起因している側面が多分にある。</p> <p>人口の約半分を占める女性の視点が政治決定の場に十分に反映されないことは、民主主義の正当性そのものに関わる問題である。単なる「数合わせ」ではなく、多様な属性を持つ人々が意思決定に参加することは、政策の偏りを減らし、社会全体の利益を最大化することに繋がる。今後、法律をより実効性のあるものへと改善していく議論は不可欠である。同時に、私たちは「人口比と候補者比を近づけることは、真に民主的な政治を行うための前提条件である」という意識を社会全体で共有していく必要がある。政治の場を特定の層に独占させるのではなく、誰もが参画できる開かれた場へと変革していくことが、日本の民主主義を成熟させる鍵となる。</p>
-----	------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2026(令和8)年度 春季 大学院修士課程 入学試験問題 《地球市民学専攻》 【専門科目】

次のⅠ、Ⅱの2問に解答せよ。

Ⅰ 次の諸項目の中から三つを選び、それぞれについて 300 字程度で説明しなさい。[120 点]

コーポレートガバナンス	自己資本利益率	KPI (Key Performance Indicator)
関係人口	暗黙知と形式知	アルゴリズムリテラシー
グリーンウォッシュ	ロス&ダメージ (Loss and Damage)	市民参加 (参加型民主主義)
ファンダメンタリズム (宗教における「原理主義」)		通過儀礼
人類学におけるアナーキズム		

Ⅱ 次の 1～4 の問いの中から一つを選び、800 字程度で論じなさい。[80 点]

1. 働き方の多様化により、副業を解禁・奨励する企業が増えてきました。企業経営の観点から副業を認めるメリットとデメリットについて述べなさい。
2. ダークツーリズムとは、戦争や災害など、人類史の暗い側面に関連する場所や出来事を対象にした旅行行動を指す概念です。ダークツーリズムの意義とダークツーリズムを進めるうえでの留意点について、地球市民学の視点から説明しなさい。
3. 利用者を排除せず（非排除性）料金も取らない（非競争性）性質をもつ純粋公共財を、市場メカニズムで提供することは困難です。では、ソーシャルビジネスはどのような形で公共財に近い役割を担えるか、具体的な事例を挙げて可能性を論じなさい。
4. 2026 年 2 月に日本で実施された衆議院議員選挙において、候補者に占める女性の割合は 24.4%と過去最高でした。しかし人口比から考えると、未だに著しく偏ったままです。この課題に関しては、2018 年に「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」（2021 年改正）が施行され、改善が試みられています。この法律は、日本における女性の政治参加の向上をどのように目指しているものなのか、他国の例と比較しながら説明しなさい。その上で、どのようにすれば実質的な変化が起こるか、あなたの考えを述べなさい。